

# 陸・海・空の総合一貫輸送体制をいち早く確立し、郷土の発展にも寄与して走り続ける輸送業の老舗企業。目指すは世界に通用する競争力。

鹿児島海陸運送株式会社（鹿児島中央支部）

鹿児島の港から世界を望んだ創業者の夢を継承し続ける、地元経済の牽引役たるトップ企業。



代表取締役会長 大西洋逸さん 代表取締役社長 大西儀朋さん

## 鹿児島海陸運送株式会社

本社／鹿児島市住吉町13-1  
代表取締役会長／大西洋逸  
代表取締役社長／大西儀朋  
従業員数／160名  
保有車両／63台



「鹿児島の発展はこの港が死活的鍵を握っている。世界への夢を託し、この鹿児島港の充実を」が口癖の創業者 大西栄蔵氏（故人）は、昭和18年に鹿児島荷役株式会社、そして昭和22年に鹿児島港湾運送株式会社を創業。海運と陸運の二本柱を事業の中心に据えた。海陸連携の輸送体制により、農水産物、木炭などのほかパルプ、飼料、セメント、石油など様々な物資の管理輸送に携わり、地元政財界での信頼を築き、地域経済に大きな貢献を果たすグループ企業へと発展を遂げてきた。大西栄蔵氏は、県議会副議長、鹿児島商工会議所副会頭等の要職を務め、政財界の活動に多忙を極めるようになり、栄蔵氏の長男 大西洋逸氏が社業の発展を支えた。

昭和47年の新鹿児島空港オープンを機に空輸部門も新設。大西洋逸氏が社長を継いだのもこの年であった。昭和61年4月、陸海

空の総合運輸事業を目的に二つのグループ企業を合併、資本金1億円の鹿児島海陸運送株式会社として新発足を果たした。

「福岡には北九州、博多、久留米、熊本には熊本、三角、八代、宮崎には宮崎、油津など、九州各県にはそれぞれ良港があり、外国からの貨物の集積拠点になり得る。道州制が実現して九州が一つになった場合、競争力を保持していないと鹿児島は負ける。鹿児島港、志布志港、川内港並びに鹿児島空港のゲートウェイ機能の強化が課題だ。そのためにも陸海空の連携は不可欠です」。大西洋逸会長は語る。ちなみに同社では7名の通関士を抱え、輸出入の際の通関業務に対応している。上海や台湾などから輸入されるファッション製品、布地、食糧など、また鹿児島から海外へ輸出される電子部品などの通関と保管、輸送まで一貫して行っており、地元企業の国際取引に

貢献している。

さらに鹿児島の競争力を高めるという意味でもう一つ不可欠なことは、新たな企業誘致による産業振興だと大西会長は強調する。

「観光や農業を振興しても、一次産品は浮き沈みが大きく、定住人口の大幅な増加も見込めない。福岡、大分、佐賀などに負けない企業誘致が必要です」。県ト協会長、鹿児島商工会議所会頭をはじめ県経済界を牽引する役職を歴任している大西氏は、現在の鹿児島の経済産業に危機感を募らせる。

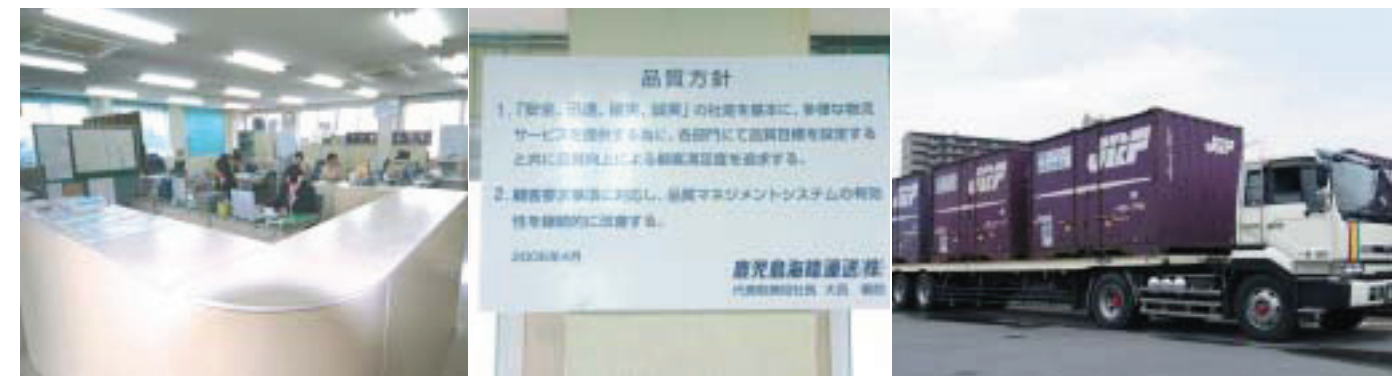
地域経済のリーダーとして奔走する会長の後継として平成14年、長男儀朋氏が社長に就任。同年暮れには本社、海陸トランスポートセンター、鹿児島駅営業所においてISO9001:2000を取得。さらに車両台数と人員など、社内でのスリム化も図った。現在の課題は、年間数千万円にも上る燃料費の高騰をク

リアすること。とりわけ海運では、船会社から燃料のサーチャージを要求され、荷主との狭間で苦戦を強いられることもある。「メンテナンスをこまめにして車両の耐用期間を伸ばす、高速道路をできるだけ使用しない、など本当に細かいことを積み重ねていくしかない。ポロのクルマでは見栄えが悪い、と親父に言われることもあります。いまは辛抱の時ですね」と大西社長は言う。

今年も業界を取り巻く厳しい状況は依然続いているが、苦しい試合を勝ち上がっていくコツを尋ねた。「常に上を見ながら集中していくこと。クルマの中でも会議室の中でも集中力を持続していくこと。そして誠実であることです」と、元プロテニスプレーヤーでもある大西社長は勝負の秘訣を語った。



3PLを視野に入れた保管型倉庫に加え、ピッキング作業も可能なスルー型倉庫を新設した海陸トランスポートセンター



2002年にISO9001:2000を認証取得。センター事務所に大きく掲示されている。

地球環境に配慮した全国ネットによるコンテナ輸送